新潟焼山（平成 15 年（2003 年）年報）

○概要

新潟焼山は、新潟県南西部、糸魚川市と妙高高原町の境に位置する標高 2,400mの活火山です。安山岩・デイサイトからなる火山で山頂部は溶岩円頂丘をなし、北方に溶岩流・火砕流が流下しています。新潟焼山は過去の活動度からランクＢに分類され、後述のとおり最近まで活発な火山活動を繰返し被害をもたらしています。近年の噴火は、ほとんどが水蒸気爆発と考えられます。

火山活動の活発化により、昭和 62 年５月から全面入山禁止とされていましたが、平成 10 年８月に山頂から４km 以内が入山禁止区域となっています。

気象庁火山監視・情報センターは、新潟焼山の火山活動状況を把握するため、平成 15 年７月から 10 月にかけて調査観測を実施しました。今回の調査観測では、山頂の北東約２㎞（賽の河原下観測点）及び北東約４㎞（カラサワ観測点）の２地点に地震観測点を設置し、山体周辺の地震活動の調査を行いました（図１）。

○最近の火山活動の記録

1949 年２月５日	噴火：北関東に降灰。
1949 年５月 19 日	噴火：雪解けに伴い 5 月 14 日から早川変色。
1949 年７月 30 日	泥流：大雨のため泥流となり被害。
1949 年９月 13 日	噴火。
1962 年３月 14 日	小噴火：降灰。
1974 年７月 28 日	噴火：28 日未明に割れ目噴火の水蒸気爆発。降灰域は北東 100km に及ぶ。噴石のため山頂付近にキャンプ中の登山者３名死亡。
1983 年４月 14～15 日	噴火：中央火口西寄りの古い噴気孔で、極めて小規模な水蒸気爆発。山頂付近降灰。
1987～1991 年	山頂付近で噴気活発。特に 1987 年５月、1989 年３～４月に活発で灰色の噴煙や雪面変色も見られた。
1995 年６月２日	火打山川の水が白濁後黒変。山頂及び山頂の北東側から極微量の噴気。
1997 年 10～11 月	10 月下旬から噴気活発。11 月 12 日、遠望観測で東の噴気孔から南東斜面にかけて、雪面にやや黒っぽい変色域を確認。

○活動概況（平成 15 年 7 月下旬～10 月上旬）

火山活動は落ち着いた状態が続きました。

○地震活動の状況

カラサワ観測点を基準として、火山性地震の発生状況を調査しました。観測期間は７月 31 日～８月 26 日及び９月 12 日～10 月３日の 49 日間です。この間に観測された火山性地震の回数は 23 回で、日回数は多いときで２回でした。地震は、振幅のごく小さなものがほとんどでした。

○遠望観測

10 月１日に妙高山麓の高谷池付近より遠望観測を行いましたが､噴気は確認されませんでした。10 月３日にカラサワ観測点より遠望観測を行ったところ、山頂直下東側の噴気孔から噴気が上が

っているのを確認しました。噴気の色は白色で、噴気の高さは最高で 50m 程度でした。また、東側のさらに標高の低い場所や山頂西側など数ヶ所からも弱い噴気が確認されました（図２）。

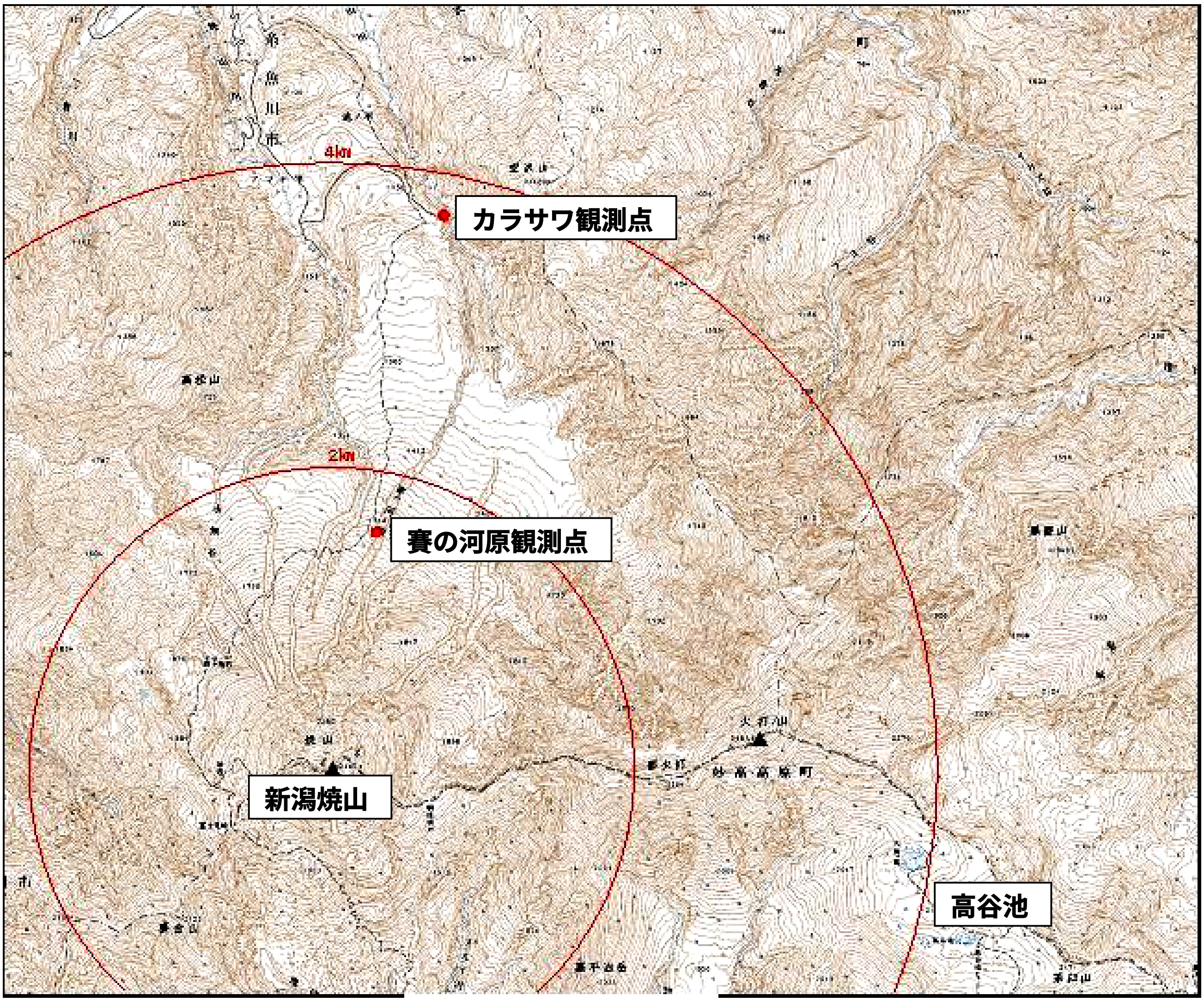

図１　観測点配置図

図２　山頂付近の様子（左：2003.10.1 高谷池より　右：2003.10.3 カラサワ観測点より）